

令和3年度以降入学生用カリキュラム・マップ

教育学研究科 共同教科開発学専攻

(令和3年8月24日更新)

学位	博士（教育学）										ディプロマ・ポリシー		
付属情報											共同教科開発学専攻		
大区分	中区分	小区分	詳細	必修 選択	科目NO	科目コード	授業科目	単位	開講 種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		愛知教育大学 静岡大学	必修		37010010	教科開発学原論	2	講義	本講義は、教育環境学と教科学を統合した学としての教科開発学を構築しようとする背景と目的を明確にする。教科開発学における「教科」とは、既存の教科枠に囚われず、新たな教科観の開発・創造という意味合いも込めている。教科環境学は、学校環境だけでなく、地域・社会・文化を含んだ幅広い視点からの教育環境の研究の発展を目指す。教科学は、教科専門と教科教育の融合による教科内容構成の研究の発展を目指すものであり、教育論、教育内容論、教材論という三つの基本軸からなる。 新たなこのような新しい学問として教科開発学を確立していくために従来の教科教育研究を中心にした研究と教科開発学との差異、教科開発学の定義・特色等、教科学と教育環境学の構造的連関をどうとらえていくかを明らかにしていく。 この基本問題を検討するために、8名の教員の専門分野を基に教科学分野という視点でのこれまでの自己研究成果をふまえながら、その基本問題に関する考察を試論的に提示する。専攻分野科目（教育環境分野、人文社会学系教科学分野、自然計教科学分野、および創造系教科学分野）は全て網羅されている。第16回には、受講生の基本的見解をまとめてもらい、ディスカッションを行う。これらの講義を通して教科開発学の学問方法論の知識を得ると共に、領域横断的な学術的知見や理論を修得していく出発点とする。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		愛知教育大学 静岡大学	必修		37010030	教科開発学実践論	1	講義	教科開発学実践論では、教育事象を共有化し、実践を理論化する方法論等を学び、学校教育の実践を理論化し、また、その理論を指導に生かす能力を身につける。学生は、教員養成系大学の教員等で活躍することが期待されているために、大学教育段階における教育実践をも視野に入れて、教科開発学における実践上の課題の把握、大学教員としての教育実践力、教員FD等、実践的諸課題を追求する。そのため、各受講者のこれまでの研究を、教科開発学の視点から構成しなおし、それについて発表をし、受講者および教員全員で議論する事で、上記の狙いを達成する。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		愛知教育大学	選択		37010050	文化資源活用論	1	講義	1)文化資源としての民族文化財（庶民生活資料）について、文化財行政、教育資源、地域資源（地域活性化や観光の資源など）の観点から講術する。そして、民族文化財の活用をとおして基礎研究（民俗学）の応用・社会的還元について検討する。あわせて、論文の書き方についてもとりあげる。 2)文化資源としての国語教科書について、歴史的な経緯・批評的言説をふまえながら、その課題・問題点・可能性について検討し考察する。 3)文化資源としての地域資源について、地域ブランドと地域振興の観点から講義する。具体的にはフードツーリズム、ルールツーリズムのほか、地域における人材育成の取り組みを事例に検討する。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		愛知教育大学	選択		37010070	科学技術活用論	1	講義	1)初等・中等教育における理科の具体的な内容について、最新の科学研究の成果をふまえ、教科内容における広範な専門的知識の重要性の認識とその理解を深める授業を行う。特に、専門的知識、先端科学技術を活かしながら、新たな理科（物理）教材を開発する意義や方法、その面白さについて学ぶ。 2)現代文明は最先端の科学的知見に基づいて作り上げられたさまざまな技術に依拠している。学校教育においては児童生徒の学習段階に応じてこのような科学技術を適切に伝授し、その適切な活用に関する理解の増進を図る必要がある。このような観点で、化学の分野における科学技術の活用について解説を行う。 3)科学教育（特に数学、理科、情報に焦点を当てて）におけるテクノロジー利用の可能性や具体例について扱う。特に、数学の場合に、教育目標や数学的活動の設定の仕方によって、テクノロジー利用の有無や使い方が変わることについて焦点を当てる。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		愛知教育大学	選択		37010090	教育評価実証方法論	1	講義	教師の指導行動が、児童生徒にどのような影響を及ぼすか、またその効果における個人差を検討することは、心理学や教育学における実証研究でしばしば用いられる。この授業では、心理学におけるデータの収集法、相關的研究と実験的研究法、心理測定の必須としての尺度の信頼性と妥当性、因子分析について概説する。また学生自身の研究について、内容、計画、方法等について発表し討議する。 学校現場でのさまざまな指導や教育方法について、その妥当性や効果を科学的に検証することは、教科開発の視点からも重要である。ここでは、学校で行われる保健指導や保健教育に対する評価法をとりあげて、その概要を解説する。特に、学校に通う児童・生徒の在籍期間における健康増進と、生涯を通じた健康増進能力の育成という二つの側面から検討する。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		静岡大学	選択		37010110	教育プログラム開発論	1	講義	教育プログラム開発論は、学校での授業の計画・実施あるいは分析・評価と同時に、高校教育機関において教育に従事するための、授業開発に関わる知識を学ぶものである。前半は、教育実践研究に必要な、研究上のアイデアを授業化する方法、データを収集し分析する方法、授業化のためのノウハウを学習する。また、教科開発の基礎となるカリキュラム経営の考え、キャリア教育等のカリキュラム開発に関わる具体的内容・方法などを学習する。	◎	◎	◎

大区分	中区分	小区分	詳細	必修 選択	科目NO	科目コード	授業科目	単位	開講 種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		静岡大学	選択		37010130	表現・鑑賞論	1	講義	芸術は存在そのものが教育であると言える。そして、芸術を表現することとそれを鑑賞することは表裏一体の関係であり、常に同時発生的に進行する創造性豊かな思考過程である。この授業では、そういった表現と鑑賞の思考過程を芸術学と認知科学を融合させた学術的な観点で整理し、芸術教育のありかたについて考察するものである。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		静岡大学	選択		37010160	教育フィールド調査論	1	講義	本授業では、学校をフィールドとして研究を進めるときに必要なデータ収集と、その分析方法について学習する。講義においては、統計学に必要な数学的な基礎、ならびに統計分析の基礎について学び、調査問題を設計する際の留意点について検討しながら、後半の講義につなげる。後半では、受講者自身の研究を素材に具体的に統計法の選択や課題について議論する。さらに、近年人文社会科学の分野で盛んに取り入れられている質的研究についても紹介する。いずれの講義も実習を多く取り入れた能動的な学習方法を用いる。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目		静岡大学	選択		37010170	教育プレゼンテーション論	1	講義	素晴らしい研究成果が得られたり、役立つものを開発したりしても、その内容を相手に上手く伝えられなければ、妥当な評価を得ることが難しくなる。「発表内容が質的に優れていること」と「その内容を適切に伝達できる能力」の両方が備わって初めて、良い研究は完成したと言えるであろう。この授業では、人前で自分の意見を主張するプレゼンテーションの重要性を認識することから始め、どのようにすれば説得的なプレゼンテーションが可能となるのか、その具体的な方法を学んでいきたい。また、専門領域（例えば、理科系か文科系か）によるプレゼンテーションの相違についても話し合いたい。加えて、英語によるプレゼンテーションの方法も学んでいく。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択		37020070	遊び文化環境論研究	2	講義	現代社会における子どもの遊びは、昔と比べてかなり変化している。この状況は、遊びそのものの変化に留まらず、様々な影響を子どもに与えている。本講義では、現代に生きる子どもの問題を遊びとの関わりから考察する。また、遊びによって身に付く「社会を生き抜く力」が、教育とどのような関わりをもつかについて話し合う。その上で、遊びがもつ可能性について、グローバルな視点から文化の創造との関わりを考える。具体的には、 1. 子どもの遊びがどのように変化しているか、過去から現在について概説する。 2. 現代の遊びが、子どもにどのような影響を与えているか事例をあげて述べる。 3. 遊びにより身に付く様々な力が、教育にどのような影響を与えているか推察する。 4. 遊びが文化を創造するとの視点に立ち、遊びのもつ可能性について考える。 本授業は講義であるが、授業の中でディスカッションの時間をもうけ、教員から受講生へ一方の授業にならないようにする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択		37020150	学校適応論研究	2	講義	学校への適応について、特に児童生徒の動機づけという観点から検討し議論する。具体的には、「やる気を引き出す教師－学習動機づけの心理学（プロフィ著、中谷訳、金子書房）」を購読し、児童生徒の動機づけに関する理論や関連する要因、教育への応用について理解を深める。受講者は興味のある章のレジュメを作成し、それを基に受講者全員で討議する。また関連する研究論文や学生自身の研究に関連する研究論文を読み、全員で討議する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択		37020190	教育哲学・思想論研究	2	講義	教育と呼ばれる事象や、教育に対する私たちの見方・考え方は、歴史的、社会的に条件づけられ制約を受けた形で成り立っています。その制約の外に出ることは最終的にできませんが、その制約を問い直すことによって、教育と呼ばれる事柄に対する私たちの常識的なとらわれを抜け出し、現実を別の見方のもとで捉える可能性を期待することができます。この授業では、西洋近現代の教育思想ないしは教育にかかわる思想を手がかりとしながら、その思想を理解するとともに、私たちが教育と見なしている事柄を問い直す視点や姿勢を習得することとします。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択		37020210	保育・幼児教育学研究	2	講義	幼児期の教育とは何か。何を目標とし、その達成に向けて具体的にどのような内容・方法で実践していくことが適切なのか。なぜ、その内容・方法が適切なのか。明治期以来の日本の幼稚園教育を中心に、その教育理念や実践方法、それらを支える保育制度の変遷をたどるとともに、現代の幼児教育・保育の内容・方法及び制度上の特徴や問題点にふれながら、今後の幼児教育・保育のあり方について検討したい。また、具体的な実践として好きな遊びの例を挙げながら、質の高い幼児教育・保育についての考察を深めたい。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択		37020110	学校危機管理論研究	2	講義	リスク認知、リスク論やクライシスマネージメント研究の現状を踏まえた理論的な視座と学校での事件・事故事例の実践的な検討を通して、学校現場における危機管理の現状と課題についての理解を深めるとともに、後半では、演習形式を通して研究上の問題意識を深めるとともに、研究上の方法論や視点を身につける。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択		37020130	教育工学論研究	2	講義	教授という意図的な行為に関して、工学的にアプローチする。現状を分析して課題を発見し、目標を立て、解決策を立案・実行・評価して、漸進的に目標達成に至る方法を習得することが第一の目標である。また、複数の事例の検討を通して、教育システムを意図的にデザインする方法と留意点について習得することが第二の目標である。授業の前半においては、プログラム学習、完全習得学習、システムズ・アプローチ、インストラクショナル・デザインを検討する。後半は、自分が教育システムをデザインする際の材料となる、動機づけ、認知的特性、教授方法について紹介する。最後に、これらの学習に基づくパフォーマンス課題として、学習指導要領について検討を行う。		◎	

大区分	中区分	小区分	詳細	必修 選択	科目NO	科目コード	授業科目	単位	開講 種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択		37020250	養護実践教育学論研究	2	講義	養護教諭の歴史や制度・養護実践・教育等からみる養護の捉え方を文献及び昨今の研究から追求する。それらをもとに、養護教育のありか方について考察し、養護学の構築に向けての理論構築を図る。 1. 養護教諭の実態と実践の現状について、歴史的背景や、制度、養護の概念や機能の視点について、文献及び昨今の研究から考察、分析し理論構築を図る。 2. 1を通じて、養護教諭教育のあり方と現職養護教諭の研修課題について分析し考察する。 養護の歴史や制度、養護の捉え方・養護教諭の実践などに関する研究成果や文献をもとに、養護の目的・機能・方法についての文献を分析し議論を通じて理論構築を図る。また養護実践、養護教育のあり方や方向性、学問構築について討議し追求する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37030030	言語教育内容論研究	2	講義	言語政策を俯瞰し、言語教育における様々な課題解決のため、教授法、教材等を開発し、教育現場のニーズに対応した言語教育の内容を創造し、それを実現するための言語教授法の開発を行う。ここで扱う言語教育とは、英語教育、日本語教育等の外国語教育、及び、外国籍児童生徒に対する母語保持教育、帰国児童生徒の日本語教育等の母語教育を含む広い言語教育を指す。 まず、現代言語教育の中で特に日本語教育に関わる日本の言語政策についての動向を概観し、それを基軸として外国語籍児童生徒の日本語学習、日本適応、母語保持、受験進学等における課題や教師の役割を具体的に検討する。また、英語教育に関して、初等・中等英語科教育、及び、高等英語教育のプログラムの開発研究の基盤となる理論や実践方法を学ぶ。 授業では、第一言語習得論、第二言語習得論、第二言語教授法、言語学習科学、異文化理解教育論等に関する先駆的理論を構築し、それを援用して言語教育プログラム、コースデザイン、教授法・教材の創造開発を行うための能力を高める。特に第二言語習得と年齢の影響、母語の関わり、インプット・インタラクション・アウトプットを重視した教授法、文法・語彙教育、個人差・社会文化的要因・動機等を配慮した教育の方法等に重点を置く。 授業の後半では、受講生が本授業から得られて知見を生かして、各自の博論の内容を精緻化、再構築する。そして、セミナー、Ⅱ等での発表を射程に入れたプレゼンテーションを作成し、他の受講生と共に検討する。また、本授業では、この時期の学会、研究会等への参加・討論等のフィールドワークも含めることがある。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37030070	民俗学教材論研究	2	講義	地域社会の人々の生活の中から問題を見つけ、その人々に関わることでにより資料を引き出して研究を進める民俗学の手法をとおして教材開発論を講述する。そして、社会科だけでなく、国語科、理科、美術科、音楽科などの教科にもかかわる民俗学教材から、既存の教科の枠を超えた「同時代生活誌」（現在という同時代の生活に内在する歴史や伝統を描き出すことにより地域社会の未来を構想する内容構成）という新たな領域の開発・創造の可能性を検討する。 まず第1に、最新の民族調査報告書や論文などを取り上げて、日本民俗学に関する諸問題について講述する。民族調査を実際に試みるための基本と応用について重点的に説明する。 第2に、民俗学史の中ですぐれた民族誌（民族事象の具体的なあり方を描いた調査報告書のこと）や研究を紹介しながら、調査資料を民族誌としてまとめることの重要性や民族誌の教材化について講述する。あわせて、博物館の民族資料展示（実物資料や映像記録資料）を具体的に紹介して、展示というまとめ方とその教材化についても取り上げる。 第3に、民族誌（史料を含む）や博物館展示資料の教材化をとおして、民族資料を用いた歴史研究について考えるとともに、歴史だけでなく地理教育、さらに国語科、理科、美術科、音楽科にもかかわる民俗学教材論を展開する。そして、それらの教科の枠を超えた「同時代生活誌」という新たな領域を開発・創造する可能性を検討する。全体を通じて、受講者自らの民族調査・研究により獲得された高度な一次資料をもとに既存の教科の枠を超えた教材を開発・創造することへの理解を深める。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37030090	地理学教材論研究	2	講義	地理学における野外調査の技法を各地理学分野の先行研究による座学と実際のフィールドでの観察などから理解することによって、①「地域」を観る目を養い、②社会科の内容である地域事象をフィールドワークで理解し、その仕組みを解き明かしようの能力とともに、③それらを構造的に把握して教材を開発する視点を養うことを目的とする。具体的には、教科専門としての地理学における基本的概念と地理学の基本的構造を理解し、それを社会科ほかの地域教材開発へと転化して授業を構成する力量との関わりを考えていきたい。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37030140	国語科教育教材論研究	2	講義	高度情報化社会と言われ子どもたちの言語生活も激変している。一方で、PISA調査・学力テスト等教育の実効性が問われている。そのような状況において、読むことの教育をラディカルに考察することが求められている。ここでは、言語とは何か、なぜ作品ではなくテキストとされるのか、作者ではなく語りを読むことの意味は何なのかといった原理的なレベルを追求することを通して、具体的な教材の読みとその教材価値について検討していくことを目標としたい。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37030150	生活科教育内容論研究	2	講義	生活科新設までの経緯、誕生した背景と要因について考察し、親学問をもたない生活科という教科の本質と独自性についての理解を深める。そして、生活科の目標と内容、年間指導計画、単元構成の基本的な考え方について検討する。さらに、生活科と総合的な学習の源流の一つであるデューイ実験学校のカリキュラム理論と授業実践について考察し、現在の生活科のカリキュラム及び授業実践を批判的に分析し考察する能力を習得する。		◎	

大区分	中区分	小区分	詳細	必修 選択	科目NO	科目コード	授業科目	単位	開講 種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37030165	外国語教育内容論研究	2	講義	この講義では日本の公立小学校における英語教育の在り方に関する理論的側面と実践的側面を扱う。具体的には、2020年度から導入される中学年の外国語活動と高学年の英語教育の研究について、指導者養成、指導内容、指導方法、カリキュラム、評価、中学校・高等学校へ繋がる英語教育のあり方等、様々な課題に対する研究を扱う。また、文献や授業ビデオ等や受講者の討議等を通して、小学校の小学校英語の理解を深め、実際の場で活用できることを目的とする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	静岡大学	選択		37030110	外国語教育論研究	2	講義	言語習得理論を修得しつつ、教室現場ではどのように外国語が学習されて行くのかを理解する。また、外国語教育における現代的課題への解決方法を探っていくことも大きな目的である。まず母語はどのように習得されるのか理解して行きたい。次に、外国語習得（又は第二言語習得）の発達過程を考察して行く。日本の外国語（英語）教育政策、特に「英語が使える日本人の育成」政策にもふれながら、外国語習得研究について、1960年以降から縦断的に俯瞰して行く。対照分析仮説、創造的構築仮説に着目しながら、1960年代、70年代を振り返りたい。次にKrashenのインプット仮説に焦点を当て、彼の理論の功罪について見て行く。1980年代以降は、習得理論追求指向と実践指向の2派に大きく分かれるが、両者の考え方をおさえて行く。そして、これまでに発表されたエボック的な研究論文のいくつかを輪読して行く。以上の論考を踏まえ、外国語はどのように教えていくと効果的かを検討し、最終的には実際にデータ収集して行く。 次に、外国語教授方法研究の基礎として、言語習得の研究成果を実際の教授法や教育プログラムの開発にどのように応用していったらよいかの基礎知識を養いたい。具体的な授業計画としては、これまでに日本の外国語教育で因習的におこなわれてきた、語彙指導、文法指導、そして4技能（聞く、話す、読む、書く）の指導方法が、本当に効果的なものであるか批判的に検討し、受講生自らが実証的にデータを収集することで、より良い教授方法を開発していく手助けをする。さらに、テスト問題作成を含む評価についても触れて行きたい。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	静岡大学	選択		37030130	歴史教材論研究	2	講義	日本近現代史を中心に、その軸となる政治史を見据えながら、文化、マイノリティ、地域社会を視野に入れ、既存の教科書の検討を踏まえ、歴史教材として何が求められているのかを考察し、自らも歴史史（資）料を読み解き、それを教材化しうる力を養う。前半は講義形式、後半は研究発表・討論を通じての演習形式で行う。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系教科学分野科目	静岡大学	選択		37030170	国語教育論研究	2	講義	国語・国語科教育論を教育課程・教育内容・教育方法の3点を中心に、その関連をどう図っていくかを軸に考察する。関連性について検証する上では、まず我が国の戦後国語教育史を視野に入れ、その位置づけを行う。その上で現在の優れた実践例を取り上げ、先の3点の関連を視点としてその価値を考察する。以上を通して受講者個々の学習開発力の向上を目指し、最終的には自らの教育課程・教育内容・教育方法の関連が図られた教育実践をデザインしていくことを目標とする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37040010	数学教材論研究	2	講義	数学教材の開発を、数学的探究のための汎用のツール型ソフト開発の観点から行い、特定の内容の学習のみに依存するものでなく、より広い数学的探究の世界を広げるために行っている学習環境であることを、理論的に考察しながら、数学教育に関連する代表的な学習環境について分析・検討する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37040030	物理教材論研究	2	講義	自然科学系の基礎学問として重要な物理学を基礎として、身の回りの現象や科学技術を概説しつつ、教材開発力を養い、その授業での活用法を検討する。特に、学習への動機付けや日常生活との関りから、理科を学ぶ意義や目的、楽しさを伝える工夫として従来型の理科教材ではなく、先端科学技術を利用した種々の民生機器や玩具の動作原理の基本的な理解に加え、「日常生活」と「理科学習」をつなぐことのできる新規の物理教材開発研究を行い、その有用性について討議・検討を加える。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37040050	理科教育内容論研究	2	講義	近年の世界的な経済発展のために地球環境が悪化の一途を辿っている。学校現場では、次世代を担う人材の養成のために、このような地球環境問題への関心を喚起するとともに、問題を正確に理解し、持続可能な社会の構築のための処方箋を考える必要がある。本授業では自然界を分子や原子の観点から眺め、人類の活動と地球環境問題を理解しながら、学習のレベルに応じた教材を開発し、どのように授業に生かしていくことができるのかを検討する。環境科学（環境化学）の理解を基盤として、環境科学（環境化学）に関連したカリキュラムの開発を行う。具体的には、二酸化炭素の化学、オゾンの化学、低炭素社会実現を目指した代替エネルギー開発などの観点から、持続可能な社会の構築のための戦略の教材化を検討する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37040060	数学教育内容論研究	2	講義	累乗和の公式の性質、球面上の幾何学、円周率の求め方、重心の性質の4つの課題を基にして、高校数学の内容を深める。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然系教科学分野科目	静岡大学	選択		37040070	数学教育論研究	2	講義	算数・数学科の指導内容について、主に次の3点を中心に分析・考察する。 （１）小・中・高の算数・数学科のカリキュラムについて、系統性を視野に入れて検討を加えた上で、特に小中、および中高の「接続」という観点から、カリキュラムについて分析する。このとき、過去の学習指導要領、過去の教科書等も調査に加えて追及する。 （２）数学的な思考力・表現力の本質について検討を加えた上で、それらの育成に焦点を当てた教材・指導法について、先行研究を踏まえて考察する。また、数学的な思考力・表現力の育成を目指した実践例を検討するとともに、いくつかの授業観察を行い、授業での生徒の表れを分析する。 （３）数学を学ぶ意義の本質について検討を加えた上で、それらを実感させる教材・指導法について、先行研究を踏まえて考察する。また、数学を学ぶ意義を実感させることを目指した実践例を検討するとともに、いくつかの授業観察を行い、授業での生徒の表れを分析する。		◎	

大区分	中区分	小区分	詳細	必修 選択	科目NO	科目コード	授業科目	単位	開講 種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然系教科学分野科目	静岡大学	選択		37040090	生物教育内容論研究	2	講義	小学校～高校の理科・生物におけるフィールドワーク（野外での観察・観測）による学習では、指導計画をたてる上で学校周辺の環境の違いに適切に対応することが必要であり、フィールドワークの熟練者でなくてもそのような対応が可能となるようなマニュアルが地域毎に作成されることが望ましい。一方、近年その重要性が高まっている生態系や生物多様性に関する学習では、体験的な内容を取り入れた効果的な学習プログラムの開発が望まれる。本講義では、理科・生物におけるフィールドワーク企画・実践の能力の高度化と生態系・生物多様性に関するコンテンツ開発技能の習得を目標とする。授業内容としては、小中高の理科において標準的な観察対象となる生態系において、観察内容と観察手法を実習形式で学び、それに基づいてフィールドワークの企画とマニュアル作成を行う。さらに、生態系・生物多様性に関して最新の概念に基づいたコンテンツを開発し、フィールドワークと室内での授業を効果的に組み合わせたカリキュラム案を設計する。これらによって、地域の環境に対応したフィールドワークを組み込んだ生態系・生物多様性に関する効果的な学習の企画・開発を行う能力をもった人材を育成する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然系教科学分野科目	静岡大学	選択		37040110	理科教育論研究	2	講義	本講義では、教科開発学の核心を形成する理科カリキュラム開発に関して、理科の目的論・目標論、理科の学習内容構造、子どもの自然理解の実態、理科授業論、そして科学と社会との関連を取り上げ、包括的理解を図るとともに、理科における教科開発力の育成を目標とする。 具体的には、戦前の「理科」誕生以降の理科教育論の展開について、当時の西欧諸国における科学教育論と関連づけて講義を行い、理科が基礎を置く自然科学研究の本質を考究する。そして、子どもの有する科学に関する素朴概念の特徴と近年の理科教授論の動向を踏まえた上、教科開発学の具体的手法について学ぶ。 さらに、21世紀の社会が直面する地球環境問題やエネルギー問題への理科の対応について論じ、これからの教科開発学の重要な視点となる持続可能な社会構築のための理科の姿を検討する。 一連の講義の後半では、前半で学んだ事項をベースに、カリキュラム分析や教科開発の実習を中心に実施する。現代理科カリキュラム（STSカリキュラム、コンテキストに基礎を置いた理科学習等々）の分析や開発を行うことによって、上記視点の具体的な展開を把握・実践できるようにする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系教科学分野科目	静岡大学	選択		37050170	体育・課外活動教材論研究	2	講義	保健体育授業および体育系課外活動において、スポーツおよび体力・健康科学の研究成果がどのように活かされているのかを理解するとともに、これまでの研究をさらに発展させることによる創造教科学分野への研究について考えてみたいと思います。講義内容は近年取沙汰されている子どもの低体力の問題、実践的授業として大切な準備運動と整理運動、主運動として取り上げられるスポーツ活動中の運動生理学的研究を文献抄読や実践風景を眺め、受講者各自のこれまでの経験と研究経過と掛け合わせながら議論したいと思います。したがって、授業内容については受講者の研究テーマも鑑みながら関連性を探り進めます。授業は4日間での設定ですが、受講者の都合などを鑑みながら、実験的な経験をするなどのフィールドワークにも積極的にトライしてみたいと思います。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系教科学分野科目	愛知教育大学	選択		37050030	保健教育内容論研究	2	講義	学校における保健教育は、学校保健の目的である、学校に通う児童・生徒の健康の保持増進と、児童・生徒が自らの健康の保持増進をはかることができる能力の育成という二つの側面を持っている。この授業では、実際の学校現場で、こうした活動がそれぞれの目的達成のために正しく実施されているか、あるいは、その活動の効果が正しく検証されているかを順に検証していく。そこに必要な視点は、科学的なものの見方である。 まず、科学的なものの見方の基本を学び、学校で行われている実際の保健指導の内容について吟味していく。次いで、学校にある各種の保健情報の収集や分析、解釈方法などを学び、さらに、保健教育（または保健指導）の効果の評価のあり方を検討する。最後に、それぞれの学校にふさわしい保健教育（または保健指導）案を作成する方法について、指導案の作成のプロセスを順に進めながら、実際に、自校の保健教育（または保健指導）案の作成まで行う。 受講生が現職教員や教員経験者である場合は、できるだけ各自の保健教育の経験を授業中に開示することで、他の受講生や教員と議論し、自らの活動を振り返ることができること、さらには、この授業での議論を通じて、他の教員の活動の質やその意義なども客観的に評価できる能力を身につけることを目指す。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系教科学分野科目	静岡大学	選択		37050070	美術教材論研究	2	講義	美術・デザイン活動及びその教育について、その歴史的変遷を概観しながら、今日の問題状況や新たな展開について展望する。特に、美術・デザインのもつ特性とその教育の価値について、コミュニケーションやそのリテラシーといった情報概念を軸に考察し、それを応用した教材開発について探求する。 授業の目標は以下の3点を主とする。 (1) 美術・デザインの歴史を概観し、その教育的役割について理解する。 (2) 美術・デザイン教育の歴史的変遷と今日の問題状況を理解する。 (3) 美術・デザイン教育における教材開発について演習する。		◎	

大区分	中区分	小区分	詳細	必修 選択	科目NO	科目コード	授業科目	単位	開講 種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系教科学分野科目	静岡大学	選択		37050090	体育教育論研究	2	講義	本体育教育論研究では、体育科における教師教育・教員養成論を巡る問題点とその解決方法について、授業研究をその中核の一つとして明らかにしていく。その基礎として、理論と実践の関係を歴史的視点および科学論的視点から検討し、理論と実践それぞれの持つ意義とその役割について理解を深める。その上で、これまでの専門家養成論に対する批判的検討とその理論の限界について理解し、実践力を高めるための授業研究の新たなあり方について、質的研究方法の一つである「アクション・リサーチ」をもとに講義を行う。これらの理解に立ち、まず体育教師が授業実践を観察するための視点形成の方法について学習する。具体的には、ビデオ撮影された体育科の授業実践を「学習資源」として、それぞれの授業場面において「教師は、何を観察し、何を考え、どのような発言（行動）を行ったのか」について討議を行う。 これらの講義から、体育科における授業研究の今後のあり方（その視点と方法）について理解を深めるとともに、「実践」の持つ意味と「授業実践」の構造から、体育科における新たな教師教育・教員養成のシステムについて学ぶとともに、授業者間における授業改善のための効果的な意見交換の方法と授業者と研究者間における授業データ蓄積方法とその効果的な利活用の方法について探求できるようになることを目標とする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系教科学分野科目	静岡大学	選択		37050110	技術教育内容論研究	2	講義	この授業では、これまで開発されてきた技術教育教材が、学校現場で学習目標達成のためにいかに実施されているか、あるいは、その製作による効果が正しく検証されているかを検討していく。そこで重要なのは、生徒の材料や道具との関わりで製作が豊かな実践的・体験的内容となっているか、学習内容が生活に活用・応用できる内容になっているか、技術を適切に評価できるかといった事項に対する科学的検証の必要性である。 技術教育で取り扱う科学技術は日進月歩の変化を遂げている。最初に、科学技術発展の革新性・必然性をその歴史から学び、次に、これまでの創造性豊かに発展してきた科学技術内容を取り入れた教材について検討する。 また、授業案を作成し、授業実践を行う、もしくは見学する。各自持ち寄った授業実践例について、その評価方法と解釈について、全体で討論を行い検証する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系教科学分野科目	静岡大学	選択		37050150	技術教育教材論研究	2	講義	技術教育における教材は、学習者自らが製作（制作）するものが大半であるが、その製作の対象となる教材そのものは、教育目的を満たすために、どのように設計されるべきかを検討し、技術教育における教材設計について考察する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系教科学分野科目	静岡大学	選択		37050190	家庭科教材論研究	2	講義	家庭科教材論研究では、食分野を中心にしながら、家庭科の教材研究のあり方を検討する。文献調査や実習・実験を通して、教材研究力・教材開発力を育成し、家庭科の授業での活用方法を学ぶ。また、身の回りの生活の中から、家庭科と関連の深い科学や文化に着目し、現代的課題につなげていく力を養い、家庭科を学ぶ意義や目的を伝える工夫についても検討する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻応用科目		愛知教育大学 静岡大学	必修		37110010	教科開発学セミナーⅠ	2	演習	本教科開発学セミナーは、大学院生が教科開発学とは何かを問いながら、それまでに研究してきた成果を、他の院生ならびに全教員の前で口頭発表する場である。他分野の教員も加わり、異なる専門性の観点から研究成果について論評する授業形態は、本専攻の特色の1つである。このセミナーでの研究発表の積み重ねが、博士論文となって実を結ぶことが期待される。さらに、教科開発学という学問領域とは何かについて、全員で議論することにより、教員と院生の共通理解を深めて行く。 最終のセミナー発表会は、隔年で両大学を会場とし、年に1度両大学の教員と大学院生が一堂に集り、合同開催する。本セミナーは各学年につき1科目ずつ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）開講される。		◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻応用科目		愛知教育大学 静岡大学	必修		37110030	教科開発学セミナーⅡ	2	演習	本セミナーⅡは、1年次に履修し、研究発表したセミナーⅠでの内容を基礎に、それ以降の1年間の研究成果を発表する。具体的には、博士論文の目次構成と、それぞれの章立ての概要等について、他分野の教員も加わり、異なる専門性の観点から検討をおこなう。セミナーⅡは、博士論文の中間発表として位置づけられる。 本セミナーⅡも、最終的に年1度、隔年で両大学を会場とし、合同開催する。		◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻応用科目		愛知教育大学 静岡大学	選択		37110050	教科開発学セミナーⅢ	3	演習	本教科開発学セミナーⅢは、セミナーⅠ、Ⅱとはことなり、開講時期は8月である。この夏の時期に研究成果を発表することで、自らの研究をまとめ、速やかに博士論文作成へと繋がるのが期待される。具体的には、本セミナーⅢにおいては、博士論文の目次構成を確定し、博士論文の草稿を基に、その内容を発表する。 本セミナーⅢも、最終的に年1度、隔年で両大学を会場とし、合同開催する。		◎	◎